

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

平成28年6月発行 NO-55

地域リハ支援センター



今年度の研修始動！春はハンズオンセミナー多数開催。

リハビリテーション専門職にとって、「見て、触れて、一緒に動いて」利用者の理解を深められることは大きな武器となります。当センターのリハ専門研修の特徴は何と言っても、ハンズオンセミナーを多数開催していることです。質の高いリハ専門職の育成を目指して開催した研修をいくつか紹介します。



PTハンドリング入門 (5月21日開催)

利用者の身体を理解するためのセンサーである、セラピスト自身の身体を磨くことを目指しました。基本的な構え・触れ方・動き方に始まり、共感できる体づくりを目指して互いに触れて特徴を捉えることにたっぷり時間をかけた研修となりました。

【講師】 神奈川リハビリテーション病院 理学療法科 浅沼満 鳥山貴大
七沢リハビリテーション病院脳血管センター 理学療法科 川瀬麻理

脳血管障害の作業療法 (6月2日開催)

動作戦略の視点から片麻痺の障害像を理解し、上肢と運動感覚、トイレ動作をテーマに患者体験を交えながら、明日の臨床に活かせる治療のポイントについて学習しました。2人に対して1人の実技講師が担当し、密な意見交換、実技練習ができた研修でした。

【講師】 七沢リハビリテーション病院脳血管センター 作業療法科
井上彰太 柏木和人 城間めぐみ 有田誠

【実技指導】 村山珠江 中野陽永 宮内繭子 日隈直宏 池田さおり



脳血管障害の理学療法「活動参加へつなぐアプローチ」 (6月11日開催)

漫然としたリハではなく対象者と共にアクティブに生活課題へ挑めるセラピストになる、対象者の問題を感じて捉える、構成要素の分析並びに評価治療を経験することを目標としました。身体機能の改善を目指す治療アプローチについて多くの時間を使い、実技練習しました。グループワークでは参加者が決めた活動の構成要素について話し合い、発表することでアプローチの視点を共有しました。

【講師】 Fリハビリテーション平塚 藤井誉行氏

【実技指導】 七沢リハビリテーション病院理学療法科 田中健康
鍋島香峰子

神奈川リハビリテーション病院理学療法科 新井康代 長尾 敏

(平田学・一木愛子)



リハ専門相談 事例紹介シリーズ ①

ここ3年間の専門相談の総件数は661件で、疾患別に見ると神経・筋疾患（特定疾患）23%、脳性麻痺18%、脳血管障害16%、脊髄損傷11%となっています。ではどのような相談が多いのでしょうか。今回の「たより」から、相談内容について紹介していくシリーズを始めます。初回は、コミュニケーションへの支援です。

生活を豊かにするIT支援

今回は、「iPadを使ってメールやLINEなどができるようになりたい」、「音声入力以外も自分で操作したい」というニーズに対して行った支援について紹介します。

ケースは50歳代の脳性麻痺の男性です。就労されており、日中は割り座でテーブルにもたれかかり、両手で上半身を支持しながらパソコンやiPadを使い作業しています。もともとタッチパッド機能付のテンキーボードを顎で操作し、パソコン操作をしていました。しかしマウス操作での文字入力は作業効率が悪く時間と労力が必要になります。そのため自身で音声入力ができるツールを探し、iPadの音声入力に出会い、認識精度の良さからiPadの音声入力を利用するようになりました。それからご本人と介助者で工夫しながら音声入力が操作しやすいように治具付のiPadスタンドを作製しました。しかし音声入力に特化していたため、アプリを閉じるなどの文字入力以外の操作は介助が必要な状況で、リハ専門相談を受け、訪問しました。

まずは、身体機能や作業環境を確認した後、音声入力のための環境を残しつつ、それ以外のiPadの操作をスイッチ1つでできる方法を提案しました。まず外部スイッチを接続してiPadを操作できる「できiPad。」(写真1)を紹介し、実際に操作できるように設定しました。それと合わせて頸部の負担軽減を考慮してスイッチの選定や設置場所を決めました。次にiPadに標準で搭載されているアクセシビリティ機能であるスイッチコントロールを設定し、ご本人と一緒に実際に使いながら基本的な操作方法を理解してもらいました。そしてご本人のニーズであったLINEを試してみても、「これならできる」と言ってもらい、紹介した機器を購入することになりました。また介助者からは治具付スタンドの治具の代わりとなる、画面から顔を離れたところでもタップできる機器を探していると相談があり、「i+Pad タッチャー」(写真2)を紹介しました。その3か月後に再び訪問し、作業環境に問題がないことを確認しました。

今回、作業環境を変更したことにより、介助者にiPadの操作を頼む必要がなくなり、作業の始まりから終わりまで自分自身の操作できるようになりました。単なる音声入力での入力機器であったiPadが、今では音楽を再生したり、LINEで色々な人とコミュニケーションをとったりと用途が広がり日頃の生活に欠かせないものになりました。今後もご本人と介助者では解決できない問題に対して支援する予定です。

(柏原康徳・一木愛子)



写真1



写真2

高次脳機能障害支援 政令市との情報交換会

平成28年5月20日（金）相模原南保健福祉センターにて、政令市と神奈川リハの情報交換会を行いました。県、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市（北部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、高次脳機能障害地域活動支援センター、中部リハビリテーションセンター、南部地域支援室）、相模原市（行政、かわせみ会）の担当者の方に参加をしていただきました。今年度も情報交換会は年に2回開催する予定です。

今回の情報交換会では、事業報告や事業計画のほかに、当事者会、家族会や巡回相談を継続的に開催すること、地域の支援力の底上げが課題にあげられています。神奈川リハでは、当事者会や家族会の開催に合わせて巡回相談を行っており、必要に応じて家族会との連携を図りながらお話を伺うことが、安定的な開催に繋がっていると考えています。また、通所施設や相談支援事業所、行政の窓口等の支援者同士の連携が不可欠であり、支援の輪を広げていくためにも、行政や相談支援専門員向けの研修に高次脳機能障害についての時間をいただけるよう、各地域で働きかけを行っております。今後も、各機関と情報交換しながらより良い支援体制の構築に向けて励んでいきたいと思っております。（佐藤健太）



◆リハ専門相談の実績（6月15日現在）

4～6月	相談件数	訪問件数	来所件数
神経・筋疾患	5	1	0
脊髄損傷	3	0	2
脊髄疾患	7	3	1
骨関節疾患	4	2	0
脳性麻痺	9	3	2
脳血管障害	6	2	1
後天性脳損傷(CVA以外)	2	0	1
内部疾患	1	0	0
知的障害	4	2	0
その他(加齢・切断等)	2	0	1
合計	43	13	8

訪問・来所の目的	訪問件数	来所件数
補装具福祉機器	5	0
住環境整備	2	3
身体機能評価	3	0
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	1	0
介護指導	1	0
支援検討 他	1	4
医療	0	1
合計	13	8

編集後記：梅雨の真ただ中、うっとうしい暑さに悩まされていることでしょう。そして梅雨明け後の猛暑。この為の準備ではないですが、職場では万歩計がブームになっています。みんなで競う目標ができると、継続するものですね。高齢者の仲間入りに向けて事前の予防対策をしているこの頃です。（泉彦彦）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
 神奈川県総合リハビリテーション事業団
 地域リハビリテーション支援センター
 TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601